



つながる、高島

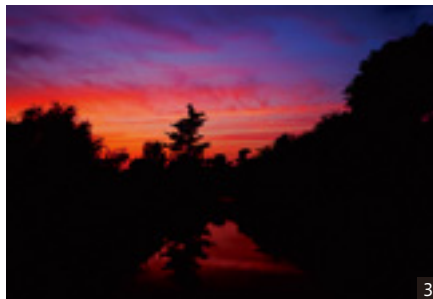
かもしだされる高島の魅力



1



2



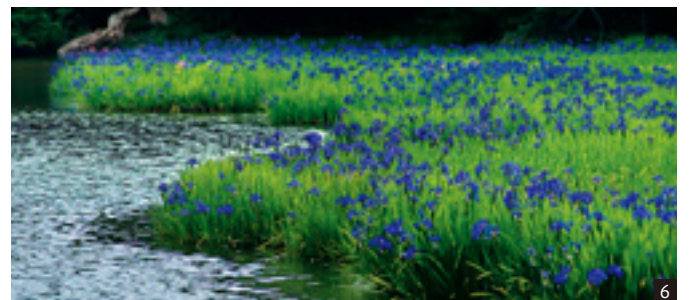
3



4



5



6

未来に^{のこ}遺したい たかしま風景

琵琶湖の水、奥深い山々、豊かな自然に抱かれた暮らし。
人々のこころに染み入る風景を、未来へ。



7



8



9



10

市内の方を中心に「未来に遺したい たかしま風景」として写真を募りました。様々な方のこのころのファインダーを通した風景が、この冊子を彩ります。

1 高原よしひろさん 2 小野裕行さん 3 葛原康子さん 4 杉原芳也さん 5 小嶋典子さん 6 谷口一さん 7 采野真衣さん 8 沼晴道さん 9 槻栄哲さん 10 深田景子さん
また、その他本文中で使用させていただいた方 浅田元さん、狭間孝さん、伊庭美恵子さん、西村一真さん、八坂和美さん、高橋和紀さん

市の概要 ————— 37

10年のあゆみ ————— 35

高島の歴史みちを散策
過去から受け継ぐ文化風景
歴史を伝えるものたち ————— 33 31

未来へつながるまちづくり ————— 29

高島の魅力発見！
TAKASHIMAP ————— 27

高島で暮らそう ————— 23

新たな創造の足音 ————— 21

伝統を守る高島の匠 ————— 19

中央分水嶺を踏破
高島トレイルに注目!! ————— 17

発酵食品 ————— 15

究極のスイーツ ————— 13

自然の懐に抱かれた
おいしい関係 ————— 9

自然の懐に抱かれて ————— 9

【巻頭特集】高島の人
守りつなぐのは暮らしの風景 ————— 3

地域に生きる安心・共生の環 ————— 5

地域の魅力を高める環 ————— 7

目次

高島の人の人



持続可能な林業に取り組み、少しずつ自然な森が増えてきました。

林業者は山と水を守る

「木と生き、水と暮らす」が人生のテーマと笑う栗本さん。林業者は山を守り、水も守る存在であると考え、自然の力を生かす林業に取り組まれています。40代の頃、それまで行ってきた利益追求型の林業に疑問を感じ、持続可能な林業を模索する中で今の形にたどり着きました。大



栗本林業
栗本 慶一さん

きな生態系の環の中で山とともに生き、その恵みをいただき、そして環境を守る。「先人の知恵に学び、いかに現在に織り込むか。答えはそこにありました」。静かに語る山の哲人は現在、生産者からユーザーまでが参画する「木の家づくり」に加入し、新しい仕組みの環をつないでいます。



高島の風景には人々の営みがあります。自然と調和しながら伝統を守りつなぐ人、暮らしの安心を願い、人々のつながりを紡いでいく人、地域に魅せられ、知恵をつないで新たな息吹を生み出そうとする人。人々の営みは、波紋のように広がって文化を醸し、風景となつて時をつなぎます。

琵琶湖を守り育てる漁師

「僕ら漁師は琵琶湖の番人なんです」と力強く語る中村さん。京阪神の上流に暮らす漁師として、琵琶湖の環境保全や稚魚放流などにも参加しています。一時は高島市を離れ、会社員として懸命に働いたものの、自身の人生を見つめ直し、何かが違うと転職を決意。実家に戻り、家業の漁を手伝ううちに、会社勤めでは得られなかった充実感を味わい、みるみるその魅力に取り付かれています。限られた恵みをいただきながら、琵琶湖とともに暮らしていけることに感謝し、漁を心から楽しむ。「これからの漁師は総合職なんです」とれた湖魚を持って大阪のお店を訪れることもあります。今日も琵琶湖を語り、人の環を拡げています。



アタリ(大漁)が出た日は、何にも代え難い嬉しさですよ。



中村水産
中村 清作さん

有限会社
グリーン藤栄
梅村 泰彦さん



田んぼの生きものは本当に様々。高島の豊かな自然の中では、彼らもこの住民です。

守りつなぐのは 暮らしの風景

木々の繁る水源の森や琵琶湖、田んぼに揺れる稲穂：
自然とともに生きる人々が守りつなぐ風景は
心に色濃く残る、人々の暮らしそのもの。

田んぼと琵琶湖を つなぐ農業

農業や化学肥料を使わず、田んぼに住む生きものと一緒に育ち合う「たかしま生きもの田んぼ米」を栽培する梅村さん。「食」を育むあらゆる生命のつながりを守ることで、豊かな自然との共生、安心・安全の共有を目指します。田んぼの水は、琵琶湖にもつながっています。漁業の中村清作さんとともに、高島の食を楽しむ体験型イベントを企画し、消費者に地域食への関心を広げることに積極的です。「高島の食を守りつなぐには、時代に応じた変化を受け入れることも必要です」。移住者の友人たちからも大きな刺激を受け、お父様から受け継いだ農業を、未来へと引き継ぎます。

循環



朽木千年桜の会

朽木深谷の桜がある景観を守るため、子どもたちの植樹や清掃活動を行っています。



トンボとその仲間たち

豊かな自然に魅せられた人々が、新旭の湖周道路の桜を保全するため活動しています。



四高桜を守り育てる会

萩の浜の四高桜の管理として、清掃活動や草刈り、植樹を行っています。



美しいマキノ・桜守の会

海津大崎の桜並木の保全活動を行っています。メンバーは親子2代にわたるなど、地域に根付いています。



畑の棚田保存会

休耕田を利用して都市住民が農作業体験を行い、地元との交流の場を作っています。



マキノのメタセコイア並木を守り育てる会

メタセコイアの保全整備を図り、並木を守ろうと、住民の主導で発足しました。



今津ざぜん草の里

県内でも珍しいザゼンソウ群生地を守るために整備作業・ガイド活動を行っています。



再生

豊かな森と
人々の暮らしを
未来につなぐ

巨木と
水源の郷をまもる会

小松 明美さん

針江で種植えを行い、育った苗を植樹しています。



朽木に生育する樹齢数百年の栃の巨木が伐採されている。私たちに衝撃が走りました。栃の巨木という地域の宝物、人と森との共生が培った地域の暮らしを、残していきたい。共感した住民が集まり、「巨木と水源の郷をまもる会」の活動が始まりました。会では、単なる自然保護活動にとどまらず、栃の巨木など地域の宝物探しを推進し、地域再生につながるための調査やイベントを行っています。特に、豊かな森を再生させる第一歩として、新旭町針江で育てた栃の苗木を伐採跡地に植樹する「びわ湖源流の森づくり」事業が始まりました。「下流は上流を想い、上流は下流を想う」。水がつなぐ地域の連携が生まれています。



ワンコインカフェ
大人から子どもまで、自治会の住民が集会所などに集まって交流の場を作っています。顔の見える関係が地域の絆を深めます。



地域に生きる 安心・共生の環

人々の関わりは、それぞれに出番と居場所を与え、共に生きるよろこびと安心感を生み出す。その環はより強く、より大きく拡がる。



丸八百貨店
旧百貨店を利用したカフェは、地域の高齢者が集う居場所を作っています。訪れた人々はひと時の会話を楽んでいます。



ぎょうれつ本舗が来る日は、地域に笑顔の花が咲きます。

社会福祉法人
虹の会
田村 きよ美さん

障がいのある人も
ない人も、共に働く



「福祉サービスの受け手だった障がいのある人が、ここでは高齢者の暮らしを支えるサービスの提供者になっています」と、田村さんは語ります。虹の会が行う「ぎょうれつ本舗」は、障がいのある人が販売スタッフとなり、買い物に困っている地域へ出向き、食品や雑貨等の販売を行っています。スタッフにとっ

て、地域で働き「ありがとう」と言われることは大きなやり甲斐となり、出かける機会を失っていた高齢者にも、スタッフやご近所の方との会話に花を咲かせる楽しみが増えました。障がいのある人もない人も、共に地域で働き、暮らせる社会を目指して、ぎょうれつ本舗は今日も元気に走っています。



日本語教室はマンツーマンの指導。生徒にも好評です。



外国人の居場所を作る

市内在住の外国人が日本語を学ぶ教室があります。「孤立しがちな外国人に仲間づくりができる場を」と語る川崎さん。暮らしの不安を少しでも和らげようと日本語指導を行う傍ら、良き相談相手となっています。また、地域の子どもたちに多様な文化を学んでもらうため、講師として教え子の外国人を小中学校に派遣します。自国の文化や暮らしを語り、地域の子どもたちと交流することが彼らの自信と地域の中での存在感につながります。「ここに住めばみな同じ高島人。彼らに居場所を作りたい」。どこまでも実直な川崎さんは、生徒に慕われ、母国に帰った生徒とも交流が続いています。教室はいつも温かい談笑に包まれています。

高島市
国際協会
川崎 功さん



助け合いの 新たな仕組みづくり

たすけあい高島の活動は、日常生活で困りごとがある方と、手助けできる方を結びつけるサポート。谷さんが「こんなまちだったら」と描いた夢を形にしました。「高齢の人が元気で活躍し、地域の人が頑張っている社会を作りたい」と谷さん。「私自身が子育てで困った経験があり、困っている人に頼まれたことは断らないようにしています」

NPO法人
元気な仲間

谷 仙一郎さん
貫井 亜紀さん



■ 高島市共同募金委員会「本家 赤い羽根うどん」

市内各地のイベントで目にする「本家 赤い羽根うどん」。こんにやく製造業を営む元気な仲間の谷さんも、赤い羽根をかたどったこんにやくで協力しています。これを企画したのは、市の共同募金委員会事務局を担う高島市社会福祉協議会の橋詰さん。地域福祉の充実を願う企業とともに、代金の一部が市の共同募金に寄付される「寄付金つき商品」を開発しています。「住民の皆さまには、買い物を通じて地域課題の解決に参加していただいています。寄付を通じて、地域にある課題に目を向けていただければ」と、その心はいつも地域に寄り添っています。



社会福祉法人
高島市
社会福祉協議会
橋詰 勝代さん



と貫井さん。家族構成や生活スタイルの変容により、現代は地域の中でもお互いの困りごとに気付きにくいのかもかもしれません。谷さんたちが、そこを緩やかにつなぎます。地域の困りごとに対して、住民同士が共に支え合うまちを作る。あふれる夢は尽きることを知りません。

地域が自ら 決定できる支援を

社協は、高島の福祉を支える存在です。「主役は地域。住民の意思を大切にしています」と井岡さん。地域の問題は多種多様、とにかく地域に出て現地の声を拾い集めることが基本です。ただし、社協が問題を見つけ、解決するのでは意味がありません。地域に暮らす方々が、自分たちで地域の問題に気付き、自らの課題として意識し、解決に向けた行動を起こすことが必要です。やる気を掘り起こすためには、話し合いが何よりも重要だとか。話し合いの場をコーディネートするため、日々市内を奔走し、自立した地域福祉の実現に向かって熱く語り、どこまでも熱く地域を応援しています。

社会福祉法人
高島市
社会福祉協議会
井岡 仁志さん



家庭教育支援チーム パラソル

子育て中のパパやママを応援するひろばを開催しています。買い物などのついでに気軽に親子が集える場となっています。

NPO法人 子育て・子育てサポート きらきらクラブ

学童保育によって、働く親をサポートしています。また、子どもが運営に加わって交流を深める機会づくりも行っています。



よりあい
寄里藍

子育てサロンをはじめ、様々な悩みを抱える人たちが集う場を提供しています。誰でも自由に参加できるひと時の交流に心が和みます。



安心

地域活性

地域の夢が詰まった炭という意味で「夢炭(ムータン)」と名付けました。

炭焼きで地域を元気に

県境に近い高島市北部で昭和30年代まで住民の約9割が生業としてきた炭焼き。この地域の文化を復活させるべく、50年前まで使用していた炭窯を修復して炭焼きの技術を再生させたのは、地域の活性化を願う地元高齢者の皆さんでした。「炭焼きで地域を元気にしたい。炭焼きが後世に残るよう、この窯が語り継いでくれるでしょう」と語る古本さんと北谷さん。

右)古本さん
左)北谷さん



国境炭焼き
オヤジの会

古本 勇義さん
北谷 三郎さん

マキノ町の道の駅では、この炭で焼いたもちを地域住民が販売しています。販売をとおして人と交流するこゝとで、地域の高齢者はますます元気になってきました。高齢者が懐かしい文化をつなぐこの地域は活気にあふれています。

地域の魅力を
高める環

地の人が見つけた価値は、
ずっと昔からこの地にあったもの。

人々の交流は、新たな気づきを与え、
未来へとつながる道筋となつて拡がっていく。

タラゴロ
太郎五郎
澤田 崇さん



この土地の素材で
生きていく

「木工の世界に入つて、朽木の歴史や木目の表情の素晴らしさを感じるようになりました」と語る澤田さん。朽木には、その昔、木地師という木工職人がいて「朽木盆」を作っていました。そんな歴史と技を持っていた地元の人が、木の価値を見逃している状況がもつたのではないと感じ、木の魅力が見える作品づくりに没頭しています。生家が代々使っている屋号を店の名前にしました。「地域の資源に目を向け、それを使って生活する。地域で生きるための仕事がしたい。他の土地の真似ではだめなんです」。今後は仲間とともに、木に限らず地域の資源を使いこなせるプロを目指したい。そのため、技とアイデアをつないで新しい魅力の創出に励んでいます。



木の駅プロジェクト

間伐材を地域通貨で買い取り、薪に加工して販売する流通システム。市内の間伐材が市民の薪ストーブ等で使用され、さらに山の手入れも可能となる。

地域資源

木にしか出せない深い味わい。暮らしの中で地域の歴史と木の美しさを感じることができます。





高島ワニカフェ
岡野 将広さん

**農家を応援したい
安全と安心を届ける仕組み**

安全でおいしい野菜にこだわ
り、自身のカフェで無農薬有機
野菜を提供しているうち、地元
でも関心が高いことを知りまし
た。「農家の応援団になりたい。
生産者にスポットがあたれば」と
考えていた岡野さん。早速、「高
島マーケット」の仕組みを作り、
店の仕入れと合わせて野菜の提
供を始めました。野菜の収穫状
況はその時々事情により変わ
りますが、安心を求め、趣旨に賛

同する地元の方が会員となつて
毎週野菜を受け取りに来られま
す。「消費者の意識が変わること
で、作り手の意識も無農薬へ向か
うはず」。安心と共感によって生
産者と消費者をつなぐために、
今日も畑を訪ねています。



安心を生産する農家が高島マーケットを支えています。

高島マーケットの仕組み



美食倶楽部
安曇川Station. 野菜たっぷり、発酵食
を取り入れた予約制のお惣菜販売が人
気。ケータリングや料理教室も。



喫茶 古良慕
新旭Station. 人が交わる場所として、
憩いの場を提供。古道具に囲まれた空
間で、時間を忘れるひと時を。

koti cafe
マキノStation. マキノの地を気に入って
オープンしたというカフェで、高島産の素
材によるメニューを提供。



高島びれっじ
商工会の有志が築150年の旧
商家を改修。趣ある空間に、地
域の人や観光客が集います。

びれっじ事業
協同組合
今西 仁さん
澤田 治郎さん



今西さん



澤田さん

地域の魅力は
外から発掘できる

登録有形文化財でもある古民
家の再生と高島の文化を発信す
るため「高島びれっじ」は始まり
ました。「空き家を生かして地域
を元気にしたい」と語る今西さ
んと澤田さん。地元メンバーが
集まり、議論よりも行動をモツ
トりに手弁当で古民家を改装
し、貸し出しを始めました。オー
ナーは意図せずして地元外の
人々ばかり。高島は外から見れ
ば魅力的なまちなのだ確信し
ました。人が集い、外の人が地域
の良さを語り、結果地元の人が
地域の魅力に気づくことができ
たのです。風と土の交流をつな
ぐ場として「高島びれっじ」にか
ける夢は尽きません。

古い家屋の修繕作業も地域の人で協力して取り組みましたと語るお二人。





自然の懐に 抱かれて

ふたごころ

水源の森と呼ばれる神秘の風景は、ただ美しく、

言葉にする間も惜しくなるほどの感覚が、体に染み渡る。

あらゆる生命の源となるこの森の水は、

里山の暮らしを支え、やがて琵琶湖へと流れゆく。

脈々と受け継がれ、守られてきた水とのつながりが

高島には息づいている――。

水源の森から里山へ
四季折々の風景に、
心も身体も洗われる



心も身体も癒される森林セラピー

森林セラピーとは、森林とふれあうことで、心と身体の健康づくりを図ること。びわこ水源の森案内人と呼ばれる専門のガイドが散策をコーディネートします。

癒しを与える
里山の空間

高島市の野山は鎮守の森や棚田、古民家が点在し、人と自然の距離がとても近いところです。水源から流れ出た水滴は、せせらぎとなつて大地を潤し、里山の多様な命を育みます。市内3カ所に設けられた森林セラピーロード（散策路）は、マイナスイオンに満ち、ストレスの多い現代人に癒しの空間を提供しています。



高島しぐれ

晩秋の高島市では、よく「高島しぐれ」と呼ばれる通り雨に出会えます。しぐれはしばしば神秘的な光景を演出してくれます。



畑の棚田
(日本の棚田百選)



生杉のブナ原生林
(日本の紅葉百選)



針江生水の郷
(平成の名水百選)



淡海湖(処女湖)
(ため池百選)



赤坂山
(日本の花百名山)

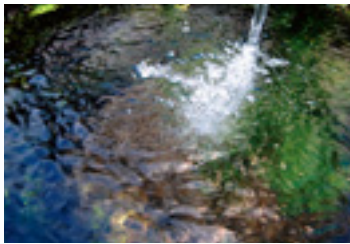


湖西の松林
(日本の白砂青松百選)

高島にある百選



夕日が映える水辺



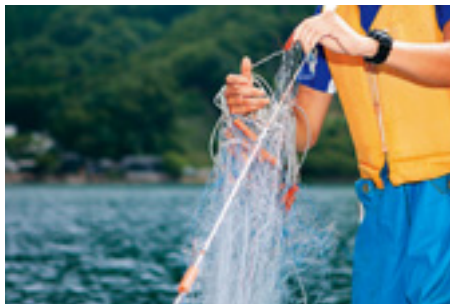
至るところで見られる湧水



美しい水の証である梅花藻(ばいかも)



ヨシ焼きの風景



小糸(刺し網)漁の様子

琵琶湖とともに生きる

伝統漁法の「やな」や「えり」をはじめ、沖すくいや小糸(刺し網)などによる漁も行われています。湖岸のヨシ焼きは春の訪れを告げる地域の風物詩となっています。

そして水は
人々の生活を潤しながら、
琵琶湖へと注ぐ

人と共生してきた 高島の水辺空間

大地を潤したせせらぎは、大きな流れとなつて人々の生活を潤し、やがて母なる琵琶湖へと注ぎます。
琵琶湖の風物詩ともいえるヨシの群落や伝統漁法、湖岸の石積み、さらには「川端(かばた)」と呼ばれる湧水を利用した水場や洗い場。古くからの地の人々が水と関わりながら暮らしてきたことを物語る、心安らぐ景観がここかしこに息づいています。



ハッ淵の滝
(日本の滝百選)



マキノサニービーチ
(快水浴場百選)



海津大崎の桜並木
(日本のさくら名所百選)



マキノ高原のメタセコイア
(新・日本街路樹100景)



やな
(未来に残したい漁業漁村の歴史文化財百選)



高島市マキノ町
(水の郷百選)



萩の浜
(日本の渚百選)

自然の懐に 抱かれた おいしい 関係

この地でとれる
食材にこだわる

高島市は澄んだ水と肥沃な土壌に恵まれ、米、野菜、果物などの農産物が豊富。これに琵琶湖でとれる魚介類を加えれば、まさに食材の宝庫といえます。

多様な食材を自分たちで作り、昔ながらの調理法でおいしくいただく。これが高島に暮らす人々の健康と長寿の源。その一方、地元産食材を活用し、新しい商品やメニューを開発する動きも見られます。

市では、地元でとれる食材や伝統的な食文化に目を向け、その継承や食育の推進に地域をあげて取り組んでいます。



高島市農産ブランド認証制度

高島産農作物や農産加工品が安心・安全であることを証明する制度。農業、化学肥料の使用量によって3段階に分けて認証。



こだわり農業

有機・無農薬にこだわる農家も多い高島市。「ミズは健康な土の証、おいしい野菜ができる」と高城恭二さん。安全安心の食を地域に届けます。



近江米

美しい琵琶湖、四方を囲む山々、豊かな自然環境のもとで生産される米。滋賀県発の全国ブランドとして、味わりに高い評価を得ています。



近江牛

黒毛和種の和牛が県内で最も長く肥育された場合に許される呼称で、神戸、松坂と並ぶ最高級の牛肉といわれます。



いちじく



栃もろ



まくわ



アドベリー(ボムズンベリー)



安曇川高校生によるメニュー開発

大地の恵みを
ふんだんに



富有柿



万木かぶ



風車メロン



しいたけ

大地と水の
恵みひとつに



近江米バーガー「うなぎ」

うなぎ重を
ファストフードに

近江米のライスプレートに、本格炭火焼うなぎとシャキシャキのきんぴらをサンド。おいしいたれがたっぷり染み込んだ焼きおにぎり風ライスバーガーで、ボリュームも満点。



鯖寿司

うまいもんづくしの収穫祭

ゆでたり、しめたりと、きれいな水はそばに欠かせません。毎年11月の「産業フェア&そばフェスタ」には、そばをはじめとする高島のうまいもんが勢ぞろいします。



産業フェア&そばフェスタ



そば

新旧スイーツ、そろい踏み

お菓子といえば、定番の丁稚ようかんや藤樹せんべいに加え、最近ではアドベリーのケーキ、近江米の米粉を使用したしおロールなど、新しい味も人気です。

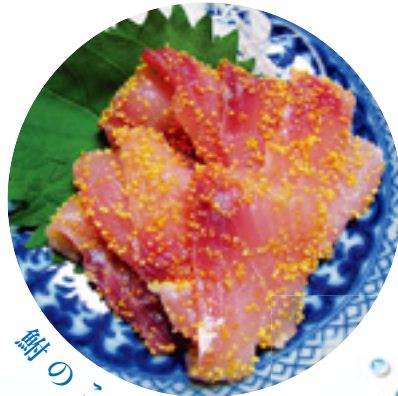


丁稚ようかん



アドベリーのスイーツ

海老豆



鮎のこまぶし

あゆ佃煮



水の恵みが
すみずみまで

ホンモロコ



ヒワマス



鯉のあらい



綺麗な水から
生まれる美酒

「日本酒」



高島の水と風土が育む
天然醸造桶仕込

「醤油」

究極のスローフード 発酵食品

ここは発酵食品の王国

今や健康と美容に良いスローフードとして注目の発酵食品。高島市には、日本酒、醤油、味噌、酢の各醸造元があり、鮎寿司に代表される数多くの発酵食品が暮らしに息づいています。このまちななげこんなに豊かな発酵食文化が？それは第一に水。比良の山々に降った雨や雪が清らかな水となつて豊富に地表に湧き出していること。第二は気候。この地域は冬の積雪が多く、発酵に適した湿潤な気候。雪に閉ざされる冬の保存食として、数多くの発酵食品が生まれたのです。

まちでは「発酵するまち、高島」をキャッチフレーズに、その魅力を全国に発信しています。



地酒

まろやかな伏流水、良質の酒米、冬の寒冷な気候と、酒どころの条件を満たす高島。市内には造り酒屋が5軒もあり、それぞれ個性豊かで、芳醇な味わいを醸し出しています。



県内唯一の天然醸造酢

〔酢〕

〔鮎寿司〕

貴重な食料を
保存する
人々の知恵



**全国に発信、
高島の発酵食文化**

平成25年12月、大盛況を博した「全国発酵食品サミットinたかしま」に続き、高島市では平成26年度に「たかしま発酵食文化カレッジ」を開校。発酵食品の効用や活用法についての講座、実習、見学などを通じ、全国に誇りうる高島の発酵食文化が学べます。

発酵食品の特徴

発酵食品とは麹菌などの微生物の働きによって作られる加工食品のこと。発酵させることにより、独特の風味が生まれて栄養価が増し、保存性も高まります。さらに余計な添加物を加えないため、体に優しく、安心・安全な食品であることなどが魅力となっています。

- 1 微生物の作用
- 2 保存ができる
- 3 匂いと味が特徴的
- 4 滋養の宝庫



アドベリービネガー

市内の酢醸造所が開発。高島の特産、アドベリー（ボイズンベリー）が原料の飲んでおいしいお酢。ドレッシングやすし酢にも。



鯖のなれずし

なれずしといえば鮎寿司が有名ですが、朽木地域などでは夏鯖を使ったものが名物。鯖街道の宿場町由来の味です。

中央分水嶺を踏破

高島トレイルに 注目!!

ここは雨を日本海と太平洋に
分ける日本列島の尾根。
眼下に琵琶湖と若狭湾が交互に展開。

「水源の森」が 紡ぎ出す 水と緑の物語



日本列島の分水嶺を たどる高島トレイル

高島市北部マキノの愛発越から今津の山を経て、朽木の三国岳へと至る尾根伝いの道、高島トレイル。北に若狭湾、南東に琵琶湖を臨む総延長80kmのこの道は日本列島の背骨にあたる部分。降った雨を日本海側と太平洋側に分ける中央分水嶺のほぼ真ん中に位置し、東西南北の気候や植生が入り交じるエリアです。

「感じてほしいのは、ブナ林を抜け、里山を下り、琵琶湖へと流れていく水の息づかい」。こう語るのはガイドの前川正彦さん。「頂上を目指す登山とは違う趣がある」と強調します。

高島トレイル

地元に残る古道や山道を平成17年の町村合併を機に、「中央分水嶺・高島トレイル」として一体的に整備したもの。高島市のシンボルといえます。



前川さん



小入谷(おにゅうだに)の云海



オールシーズン楽しめる山